

「免疫炎症性難病創薬コンソーシアム」に参画
ー3 アカデミア・3 製薬企業による協調的・競争的な創薬研究ー

2023/4/1

・概要

岩手医科大学医学部内科学講座リウマチ・膠原病・アレルギー内科分野の仲哲治教授は、慶應義塾大学医学部内科学（消化器）教室の金井隆典教授、内科学（リウマチ・膠原病）教室の金子祐子教授、竹内勤特任教授、国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所トキシコゲノミクス・インフォマティクスプロジェクトの山田弘プロジェクトリーダーおよび小野薬品工業株式会社、田辺三菱製薬株式会社、第一三共株式会社らが設立（2018 年）した「免疫炎症性難病創薬コンソーシアム」に参画し共同研究をスタートしました。

このコンソーシアムは、複数アカデミアと複数製薬企業が参加する新しい形の協業の場であり、関節リウマチ、潰瘍性大腸炎などの免疫炎症性難病を対象とし、質の高い臨床データを基盤とした詳細な遺伝子発現解析等を行うことにより、免疫炎症性難病に苦しむ患者さんのための新しい治療法・診断法の開発につなげることを目的としています。

・背景

近年、免疫炎症性難病の改善・完治をめざして、臨床検体を最新技術で解析したデータが創薬研究に活用されています。しかし、各種免疫炎症性難病の臨床検体数は有限であり、新薬の研究開発費用のさらなる増加も課題となっているため、従来のようなアカデミアと企業との一対一の共同研究だけでは効率的な新薬開発が難しくなることが予想されます。

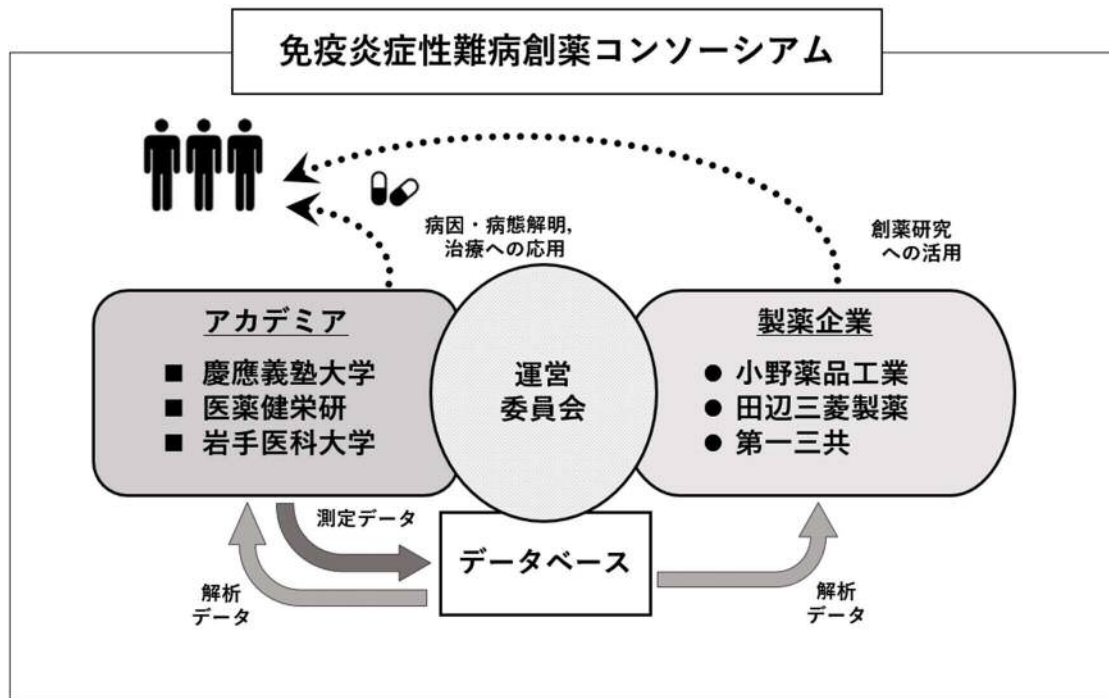
本コンソーシアムではこうした課題を克服するため、慶應義塾大学病院リウマチ・膠原病内科、消化器内科と新たに岩手医科大学医学部内科学講座リウマチ・膠原病・アレルギー内科分野が参加し、複数の免疫炎症性難病患者を対象とした治療前後の臨床検体および疾患情報の収集を行い、医薬基盤・健康・栄養研究所でこれらの臨床検体について遺伝子発現解析を含めた詳細かつ網羅的な解析を行います。本コンソーシアム内に蓄積された各種データをもとに構築される質の高いデータベースは、参画するアカデミア及び製薬企業間で共有され、製薬企業各社は、このデータベースを活用し免疫炎症性難病治療薬の創製をめざして独自の創薬研究に取り組み、各アカデミアは、研究成果をさらなる基礎・応用研究に役立てるという、これまでにないユニークな産学連携コンセプトのもとに本コンソーシアムは運営されています。

岩手医科大学では、2021 年に着任した仲哲治教授（医学部内科学講座リウマチ・膠原病・アレルギー内科分野）により、関節リウマチなどの免疫炎症性難病に対し、診療科の垣根を超えた生物学的製剤などの分子標的薬治療を専門に地域に根差した膠原病診療を行っております。仲哲治教授の高知大学からの岩手医科大学への異動に伴い、新たに本コンソーシアムに参画し、慶應義塾大学、国内製薬企業 3 社と共同で研究を推進することで新しい治療法・診断法の効率的な開発につながることを期待されています。

・運営

2023 年 4 月 1 日現在での参加機関は 6 機関であり、各機関のメンバーで構成される運営委員会がコンソーシアムの運営・管理を行います。新たにコンソーシアムへの参加希望がある場合は、規約に従い運営委員会で随時検討するものとします。

【参照】



1. 名称

免疫炎症性難病創薬コンソーシアム

2. 研究期間

6 年間（2018 年度～2023 年度）

3. 目的

免疫炎症性難病を対象とした質の高い臨床データ解析を通じた新しい治療薬・診断薬の開発

4. 所在地

東京都新宿区信濃町 35（慶應義塾大学信濃町キャンパス）

5. 参画機関

岩手医科大学医学部内科学講座リウマチ・膠原病・アレルギー内科分野

慶應義塾大学病院 リウマチ・膠原病内科、消化器内科

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 トキシゲノミクス・インフォマティクスプロジェクト

小野薬品工業株式会社

田辺三菱製薬株式会社

第一三共株式会社

6. 対象予定疾患

免疫炎症性難病